＜実践発表＞　日南市立油津小学校

学力向上とNIE　～読解力向上の取り組みを通して～

発表者　教諭　福島　和馬

１　はじめに

（１）学校の概要

日南市は、宮崎県南部に位置し、温暖な気候である。油津小学校は、自然豊かで港近くの学校として、140 年以上の歴史ある学校である。現在、油津小学校では、１人１台のタブレット端末を活用しながら学力向上に取り組んでいる。毎年の学力テストでは、基礎、応用ともに全国平均を下回り、課題が多くある。そんな中、令和３年９月からＮＩＥの取り組みを始めた。一言でＮＩＥと言っても、新聞の活用法は、多種多様で幅広く、どの分野で取り組みを行うか考えた結果、本校の課題である学力向上を進めることにした。

（２）学校の目指す児童の姿

油津小学校では、学校や地域の伝統・歴史・文化を学校のよさとして捉え、「導き、見守り、見届ける教育」を推進することで心豊かでたくましく、自ら学ぶ油津健児の育成を学校の教育目標としている。具体的な目指す児童像として、「よく考える子、人を大切にする子、きまりを守る子、元気のよい子」を掲げている。

（３）学校におけるこれまでのＮＩＥ活動

本校では、上述のように、学力向上が喫緊の課題である。そこで考えたのが、国語科を中心とした取り組みである。その中でも特に読解力について焦点をあてた。いうまでもなく、読解力は、生涯に渡って必要な力であり、各教科とも関連する能力である。極端な言い方になるが、ペーパーテストにおいて、読解力がなければ問題の内容すら分からず、正答へとたどり着くのは到底困難なことである。私は、読解力を３つの力に分けて考えた。１つは、音読力、２つ目に、語彙力、３つ目に要約力である。そこで、これら３つの力を向上させるために、新聞コラムを活用した取り組みを考えた。取り組みは、令和３年９月から行い、対象学年は、主に５年生と６年生である。国語科の時間を活用し、毎日実践を重ねていった。

２　実践の内容

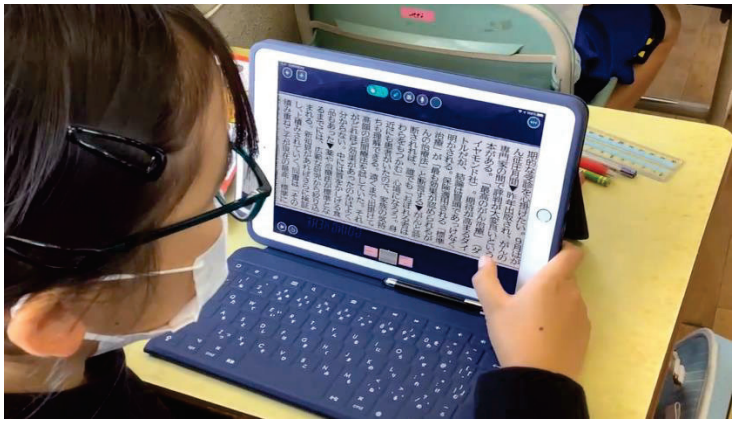
（１）新聞記事の要約による読解力向上の取り組み（５・６年生）

ア　記事の選定

全５社の新聞記事を読み比べた結果、児童にとって読み易く、地域の出来事も知

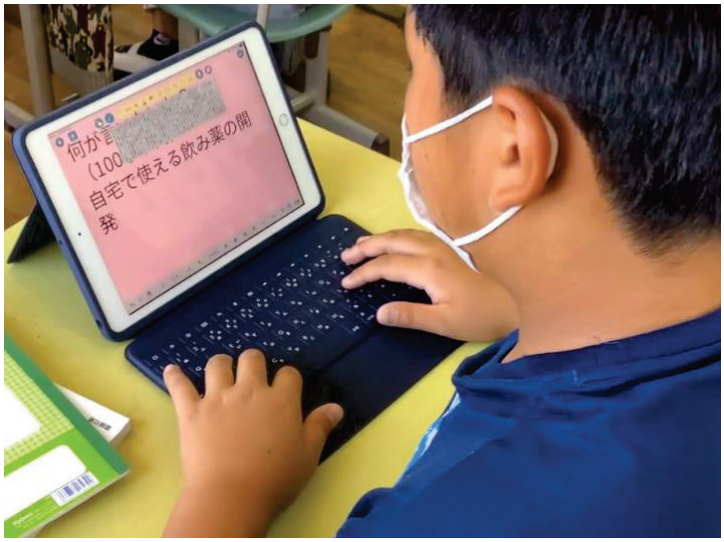
ることができる宮日新聞の朝刊１面コラム「くろしお」を活用することとした。

イ　記事の音読



音読の効果については、脳の前頭葉の働きを活発にすることが分かっている。また、音読が速くなると当然のこととして黙読も速くなり、読解力向上には欠かせないスキルが身に付くと考えた。「くろしお」は１つの記事に約 580 文字ある。その記事を読むのに要する時間が、平均で 175 秒くらいであった。１番速い児童と大人が読み切る時間が 90 秒であったことから目標時間を 90 秒として取り組んだ。３か月後には、クラス全体の平均が 96 秒になった。

ウ　記事の要約



「くろしお」の 580 文字を 100 文字に要約する活動を行った。最初の３回は、模範解答を示し、要約のポイントを指導した。タブレットを活用することで時間の短縮化を図った。初めの内は、５～６人程度しかできなかった要約が、３か月後には９割ができるようになった。

エ　語彙力の向上

語彙力を高めるため、記事の中の難しい言葉に説明を入れることをした。要約のポイントを説明する際、語彙についても簡単に説明し、少しでも語彙力が高められるようにに取り組んだ。語彙の説明については、読む文字数が多くなり過ぎないように５つまでとした。継続した取り組みで語彙力の向上に繋がったと考える。

（２）新聞４コマ漫画による語彙力、表現力向上の取り組み（１～４年生）

ア　記事の選定

５社の新聞の４コマ漫画を読み比べ、児童にとって易しい内容のものを選定した。

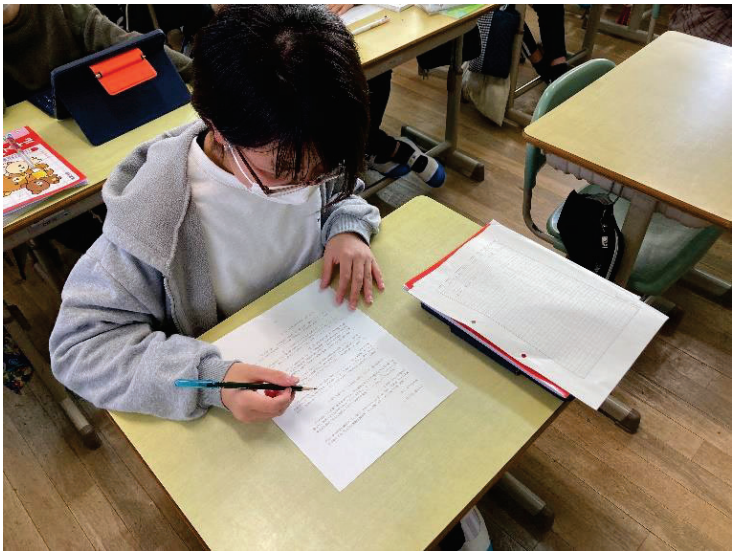
イ　言葉選び

主に、４コマ目にくる吹き出しに空欄を設け、そこに入る言葉について考えさせた。低学年は、自分で考えるのは難しいため３択問題とした。４コマ全体の流れを捉え、コマの前後から言葉を推測させる。この活動を通して、会話や背景など様々な部分から総合的に適切な言葉を判断する力がつくと考えた。適切な言葉を考える活動を通して、語彙力だけではなく、構成力や表現力など様々な力がつくと考えた。

（３）新聞記事並び替えによる文章構成、接続語、言葉の学習

ア　記事の選定

高学年の児童にとって抵抗なく読める記事を選定した。



イ　記事の並び替え

記事を段落ごとにばらばらにしたものを準備し、正しい順番を考えさせた。作者の考えは最後にくることが多く、回数を重ねるごとにそのことに気づいた児童が多くいた。前後の関係を考える際、接続語に注意すると簡単に答えを導き出せる時があることにも気付いた児童が数名いた。回数を重ねることで、筆者の意図や文書を書く際の工夫が自然に分かり、大変意義のある活動になった。

ウ　接続語、言葉の学習

上記に記したように接続語の学習や文章全体からタイトルを予想したり、最後にくる言葉を考えたりする学習を行った。大事な言葉は、繰り返し出てくることや作者が一番言いたいことが最後に出てくることなどが分かり、文章の構造を学ぶ上で大変良い学習活動になった。

（４）テーマを設定した新聞掲示物による時事関心意欲の向上と語彙・表現力向上、キャリア教育推進の取り組み

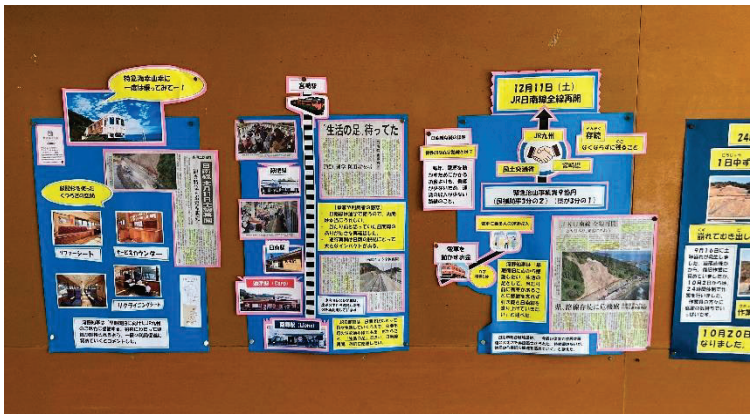
ア　記事の選定

新聞の広告、その時の世の中の関心事など各新聞社の記事から抜き出した。

イ　語彙力・表現力向上の工夫

新聞記事には、すぐに児童が理解できない言葉や未学習の言葉がある。それらの言葉には、意味を説明する注釈をつけ、語彙力アップを図った。また、新聞記事

に興味関心を持ってもらうために、ある程度ストーリー性や興味・関心が高い内容の記事を選定した。



新聞記事には、すぐに児童が理解できない言葉や未学習の言葉がある。それらの言葉には、意味を説明する注釈をつけ、語彙力アップを図った。また、新聞記事に興味関心を持ってもらうために、ある程度ストーリー性や興味・関心が高い内容の記事を選定した。ストーリー性が高い内容は、例えば、“次の総理大臣は誰だ”、“自然災害復興への道のり”などである。

ウ　キャリア教育の推進

新聞広告は、企業の独自性とインパクト、メッセージ性などあらゆる要素を含んだ物である。広告を通して様々な企業があることを知ることはそのままキャリア教育へと繋がる。また、それぞれの企業が努力していることやこれらからの日本や自分の生き方を考える上で良いきっかけを与えることも考えられる。さらには、広告で使われている言葉や写真は、表現力を身に付ける上でも活用できる。このように新聞広告や時事問題を取り扱うことは様々な付加価値があると考える。

３　成果と課題

（１）成果

○新聞記事の要約による読解力向上の取り組みについては、回数を重ねるごとに音読の速さ、要約の速さ、内容が向上した。

○新聞４コマの取り組みについては、児童は、楽しく活動でき、その中でも言葉を吟味し、言葉について考える習慣を身に付けることができた。

○新聞記事を並び替える活動を通して、意見を述べる時の文章の構成について考えるとともに、接続語や抽象、具体の変換など言葉の言い換えについて学習することができた。

○新聞掲示の取り組みについては、児童が時事問題について関心をもち、言葉の使い方や意味について知ることができた。

（２）課題

○継続した取り組みによって、何がどのように変化したのか数値やアンケートによって、エビデンスベースドでしっかり検証する必要がある。

○単学年ではなく、学校全体で組織的な取り組みをする必要があり、そのシステムや取り組みの準備、役割分担など細かな打合せや共通理解、実践の在り方を模索する必要がある。